

<情報公開文書>

細動脈硬化の評価指標に関する多施設共同後ろ向き研究

当院では厚生労働科学研究*として、脳卒中の種類と動脈硬化との関連を調査する研究を行っています。2008年6月から2010年5月までに神経内科・脳卒中科で頸動脈エコー検査をうけられた患者さんを対象に、年齢、性別、血液検査（脂質、腎機能）、危険因子（高血圧、糖尿病、高脂血症）、動脈硬化の検査（頸動脈エコー、脈波伝播速度）、頭部MRI検査などの検査結果と脳卒中の種類との関係について調査しています。ご協力いただけますようお願い申し上げます。

*平成22年度厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）「動脈硬化の多角的評価による脳卒中個別化治療開発に関する研究」

研究調査の目的

脳卒中は多くの場合、動脈硬化が原因で発症しますが、動脈硬化にも種類があり太い血管が主に障害される粥状硬化と、細い血管が主に障害される細動脈硬化に分かれます。粥状硬化は太い血管ですので評価する方法がたくさんありますが、細動脈硬化は0.1-0.2mm程度の血管が対象ですので直接検査で見ることが困難で、まだ確立した評価法がありません。この研究では、粥状硬化と細動脈硬化を評価できる可能性のある検査を複数行い、両者を区別できるかどうかについて研究します。

研究の対象となる方

2008年6月1日から2010年5月31日の2年間に、脳卒中により入院された患者さん、もしくは外来で頸動脈エコー検査をうけられた患者さん

方法

年齢、性別、血液検査（脂質、腎機能）、危険因子（高血圧、糖尿病、高脂血症）、動脈硬化の検査（頸動脈エコー）、頭部MRI検査などの検査結果と脳卒中の種類との関係について調べます。診療録（カルテ）のみの調査であり、電話や手紙等で患者さんに直接、病状を尋ねることはありません。

研究期間

2011年4月から2012年3月まで

意義

この研究をもとに細動脈硬化を評価する方法が確立すれば、日本人に多い細動脈硬化が原因で起こる脳卒中の予防に役立ちます。

個人情報の取り扱い

この調査では、集計、解析の際に匿名化して情報を取り扱うこととし、患者さんの個人

情報を厳重に保護し、患者さんに不利益が生じないように配慮しています。この研究は国立循環器病研究センターをはじめとした多数の施設と共同で行う多施設共同研究で、患者さんの個人を同定できる情報はすべて削除した上で検査結果を国立循環器病研究センターに送付し、データを解析いたします。この調査によって得られた情報は、研究の目的以外には使用いたしません。また、原則的に診療録（カルテ）のみの調査であり、電話や手紙等で患者さんに直接、病状を尋ねることはありません。

対象に該当する患者さんで、この調査について疑問または情報提供拒否のご意見がございましたら、神経内科・脳卒中科担当医までお知らせください。ご連絡がない場合には、貴重なデータとして本研究に活用させていただきます。

診療技術の向上のため、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

問い合わせ先：大阪大学医学部附属病院
吹田市山田丘2-15 TEL(06)6879-5111

神経内科・脳卒中科

本研究担当： 田中 真希子

研究責任者： 北川 一夫